

令和2年度 東国文化自由研究レポート



研究テーマ

なぜ玉村町にはたくさんの古土賣かいがあるのか。

提出日 令和2年8月24日



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年4組4番

氏名 ウィザロウ ソフィ

テーマ

なぜ五村町には古墳がたくさんあるのか？

1. 調査の目的や動機



自分の住む町の歴史や古墳、古墳時代の様子などについての理解を深める。

2. 調査方法や内容

町の歴史資料館で資料を見たり展示物を見たりする。  
それらの資料から考えた事をレポートにする。  
インターネットで調べる。

3. 気つけたこと

テーマにそった調べ方をした。その答えを導く出すためには何か必要かを意識した。



群馬県は古墳時代  
東国文化の中心地として  
盛えていたよね。

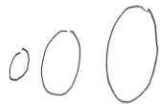


うん！  
五村町はそのころ  
どんな様子だったのかな。  
調べてみよう。

群馬県にはたくさんの古墳があります。五村町でも古墳時代200基もの古墳が作られたと考えられています。今残っているものは数少ないです。しかし、なぜこんなにも多くの古墳を五村町に作ったのでしょうか？

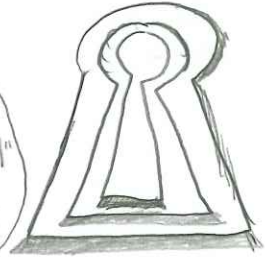
テーマ

なぜ玉村町にはたくさんの古墳があるのか。



伝説

力を持った豪族がいたのではないかと、大和政権と深い関わりがあったからではないかと、農業がしやすい土地に関係があるのではないかと？



上毛野国は、関東地方の中でも、豊富な資源、朝鮮半島から伝わった最先端の文化技術を持ち、東国文化の中心地として栄えていた。



古墳時代の平安時代、関東地方で栄えた文化を「東国文化」という。古墳時代群馬県は上毛野国と呼ばれていた。

奈良、大坂 ヤマト政権

政治、経済文化の中心

良好な関係

東国文化  
上毛野国  
最先端の  
技術

東国文化の中心

豊富な資源、朝鮮半島の技術

群馬県 東国文化の中心地  
pref.gunma.jp/p07/6219-6073.html

ヤマト政権



上毛野国

そのころ玉村町では、急速に低地化が進み用排水路を整備して低地の水の管理に成功すると水田が開けた。群馬県南部の利用されていなかった低地は、東海系はいの外部の集団からはとても魅力的に映ったに違いない。

玉村町の前期古墳  
平成25年  
玉村町歴史資料館資料

〔玉村町に有力な豪族がいた事を示す言証抄〕

玉村町には、古墳時代200基もの古墳が作られました。また、朝魚羊半島で作られた出土品も数々発見されています。「前方後円墳」が作られている事からもヤマト王権とのつながりをうかがえます。



軍配山古墳

古墳時代前期 **4世紀**  
**軍配山古墳 円墳**  
 主な出土品 鏡, 勾玉  
 大きー直径約40m, 高さ約6m

川井稻荷山古墳 **下郷天神塚古墳**



これは、**三角縁神兽鏡**という**中国**の神仙思想と言われる4人の神様、4つの神兽、4つの文字が表現されている金鏡です。金鏡の縁は断面が三角形になっていてとても珍しいものです。川井稻荷山古墳で出土しました。

西日本では多く出土しますが東日本では群馬の12枚が最高だそうです。

**玉村町最大!**

玉村町に残る古墳のなかでは一番大きい!

→この古墳には5世紀後半に一番大きな力を持っていた人がうめられていると考えられる。



古墳時代中期  
**梨木山古墳 5世紀後半**  
 前方後円墳  
 大きー全長約750m  
 高さ約7m

**小泉長塚古墳**



6世紀後半

**冠の石皮片**

出土品のうち244点が県の重要文化財になっている。

(玉村町歴史資料館 資料)



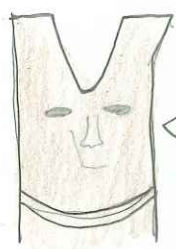
刀の長さは92cm!  
 このデザインは日本でたった一つでとても貴重。

石室からは15体の人骨が!!

単鳳環頭大刀 (たんほうかんとうたう)



玉村町の古墳は全て川の流域だった!



古墳の材料  
 盛土のための土  
 葺石(ふきいし)のための石  
 埴輪をつくるための粘土粘土やそれを火焼くための薪薪  
 杭杭や食巾食巾りものをつくるための木 がある。

近つ飛鳥博物館  
 chikatsu-asuka.jp/?s  
 = child/04how

粘土は花崗岩かこうがんなど岩石が風化した物質からつくられます。

大量の粘土がある場所は  
[touroji.com/elementary-knowledge/tairyounonedo.html](http://touroji.com/elementary-knowledge/tairyounonedo.html)

↓  
 岩石が長い間空気にさらされてくずれ土になる現象。

考えたこと

玉村町にはからす川、利根川の2つの川が流れています。上でも挙げたように古墳に必要な材料は、土、石、木、岩石などです。つまり、川の近くに古墳を作る事で古墳建設に必要な材料が得やすく物資も運びやすく水の補給もいやすいという利点がある。これらの理由から玉村町の古墳は川の近くにあり、川が近くにあることが古墳が作りやすい条件だったと考えられる。



古墳の大主がその土地の発展や豊かさを表している。  
 ある程度力を持った人がいなければ労働者を集める事は出来無い。  
 労働者(明) → 古墳(大)

玉村町で発見された古墳の多くが、鳥川の流域

玉村町で発見されている古墳の多くは、鳥川の流域である事に  
気がつき調査を進めると粘土の元である花崗岩が鳥川には  
たくさんあるという事が分かりました。 ja.m.wikipedia.org



古墳時代6世紀後半のものと推定されます。発掘された破片はわずか  
13個でしたが復元してみるとふつうの馬形埴輪の約2倍、高さ約150cm、長さ約  
120cmという日本最大級の大きさであることが、これまでにない特殊な装飾をしている  
ことが分かりました。  
town.tamamura.lg.jp/docs/2014092900030/

この全国最大級の馬形埴輪からは古墳時代の玉村町の様子か分かります  
と思います。まず、着目したのは、灰土です。この埴輪の材料である粘土  
の原料「花崗岩」が川で得やすかったのではないかと予想できます。

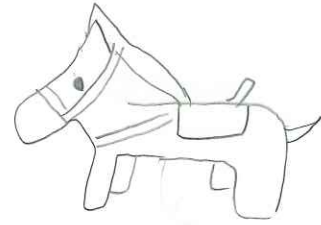
次に、技術力に注目しました。これだけ大きな埴輪を作る事が出来た  
という事は、高度な技術力が必要だったにちがひありません。

玉村町が作られたのは、古墳時代初期でした。稲作が開始し  
経済が発展してヤマト王権との交流もあった玉村町。このような  
高い技術力を得る事が出来ました。

このオカ塚遺跡の馬形埴輪は「発展の象徴」と言えるこ  
しょう。



〜まとめ〜



## 結果と考察

玉村町にたくさんの古墳が作られた理由は大きく分けて2つあるという結論になった。まず一つ目は、ヤマト王権との関わりだ。というのもヤマト王権の象徴である前方後円墳が発見されており、今まで使われていなかった低地を開拓し稲作を始め資源豊かな県だったからだ。2つ目は、川が近くにあり古墳建設に必要な材料が得やすいなどの利点があったからだ。「水」が得やすかった事は豊作につながり経済も豊かになっていった事で玉村町がさらなる発展をとげ力を持った豪族たちが現れ死んでいった。それがくり返された事で玉村町には古墳時代の発展を表す古墳がたくさん作られたり全国最大級の「馬形埴輪」が見つかるのたろう。

## <感想と今後の課題>

このように、何枚にも上る調べ学習をしてレポートにまとめるという経馬舎が一度もなかったのが良い機会になりました。やはり、テーマからずれないよう考えて調べていく事の難しさを実感させられました。自分の地域や古墳時代を見てみると驚きや発見がたくさんでとても勉強になりました。

## 参考文献

玉村町歴史資料館 資料 玉村町の前期古墳 平成25年度

大量の粘土がある場所は [touroji.com/elementary](http://touroji.com/elementary)

[town.tamamura.lg.jp/docs/2014092900030/](http://town.tamamura.lg.jp/docs/2014092900030/) - [knowledge/tairyounonedo.html](http://knowledge/tairyounonedo.html)